

# 学んで行動する 議会へ

## 市政調査会

〔研修日〕

平成29年11月13日

〔参加議員〕

16名

市政調査会11月例会として、盛岡グランドホテルで行われた岩手県市議会議員研修会に参加した。

「小さなまちの大きな挑戦―世界は規模の



大小ではなく価値の大小を見ている」と題し、(株)南部美人の久慈浩介社長が講演。二戸市がニューヨーク市で開催した海外発信事業を一緒に企画し、浄法寺漆や日本酒をPRするイベントを行った体験を基に、世界は価値あるモノを求めていることが話された。

次に、「安倍政権の展望―内政と外交」と題し、東京大学名誉教授の御厨貴氏が講演。天皇陛下の退位の時期や政権の今後の行方など、大変興味深い内容であった。

研修会に引き続き、県内の市議会議員が一堂に会し、意見交換を行い交流を深めた。

## 議会改革に関する研修

〔研修日〕

平成29年11月17日

〔参加議員〕

- 荒川栄悦
- 浅沼幸雄
- 宮田勝美
- 小林立栄
- 菊池美也
- 萩野幸弘
- 瀧本孝一
- 佐々木大三郎
- 菊池巳喜男
- 照井文雄
- 瀧澤征幸
- 新田勝見

早稲田大学マニフェスト研究所が主催する研修に、遠野市の議会改革の客観的評価を知ることが目的に12名の議員が参加した。

同研究所は、地方議会の議会改革の進み具合を「全国議会改革度調査2016ランキング」で発表している。

研修においては、市民の多様な意見を求める工夫が大事であることを指摘された。IC



T活用におけるタブレットは便利な道具であり、導入についてタイムスケジュールが必要であるとのこと。

改革が地域振興に連動しているか、活動した結果、地域に変化を起させたかどうかを自らチェックする体制を整えているか等の指摘を受けた。まだまだ議会改革への取り組みが足りないと感じた研修だった。

## 教育民生常任委員会

〔視察日〕

平成29年

11月16日・17日

〔参加議員〕

- 萩野幸弘
- 菊池美也
- 宮田勝美
- 小林立栄
- 瀧澤征幸

分の1の面積の中に、72万8千人余りの人口を有し、一人暮らし高齢者は約4万9千人である。

①ライフライン関連を中心とした民間事業所ネットワークが、日々の生活を外部から確認(郵便受けなど)し、異変があった際には通報する、ゆるやかな見守り。

■練馬区の高齢者見守り訪問事業  
練馬区は本市の約17

②申請のあった高齢世帯に対しての定期訪問による、面談見守り。

③ボランティアと行政が連携し、支援が必要とされる高齢者への積極的な関わりによる見守り。

この3段階による高齢者見守り訪問が実施されている。これらは自治体の規模に関係なくどこでも実践できる発想で、本



市も取り組む価値があると感じた。

■千代田区内の児童発達支援・放課後等デイサービスぴかいち

障がい児を0歳から18歳まで継続して支援できる施設である。同様の施設が本市にはないため、今後はニーズを調査しながら設置の検討もすべきではないかと感じた。

## 広聴広報常任委員会

〔視察日〕

平成29年12月15日

〔参加議員〕

- 菊池巳喜男
- 小林立栄
- 菊池美也
- 多田勉
- 照井文雄
- 新田勝見

町村議会コンクール最優秀賞の実績を持つ金ヶ崎町広報常任委員の任期は2年で、議長と議員の半数の計8名が議会だよりを作成していた。

①ありのままに解りやすく

②議員の力で

③スピード発行

を編集モットーとし、議会終了後の翌月第一木曜日に発行することを心がけているとのことだった。

特筆すべき事項は、編集作業に入る前に実体スピード感を持って全体のレイアウト表を作成していることだった。それをもとに委員全員がどのような広報にしたいか確認し、作業を分担していた。紙面構成の工夫もさ

ることながら、予算委員会等での発言内容は、全議員が掲載したい2項目ずつを提出するなど、議会総意の広報紙であることも感じた。

さらに、町の取り組みを追跡し、検証、提言につなげる追跡記事のコーナーは、議会のチェック機能を果たしていると感じ、とても参考になった。

研修で得たことを基に見直しながら、市民に読んでもらえる議会だよりに取り組んでいくことが大事であると感じた。

